

地域の暮らしと命を育む 生きものの語りをしませんか？



3.11 で分かったこと

- お金があれば幸せになれると思っていた
- しかし家も財産も一瞬にして流されてしまう
- 被災地の人たちを見ていると地域の暮らしの大切さが分かる
- 被災地の復興とは地域の暮らしを取り戻すことだ
- 地域の暮らしは地域の人と様々な命に支えられている
- 自分たちの地域の暮らしを支えているものを大切にしたい
- 自分たちの集落の仲間と地域にいる命あるものを大切にしよう
- 集落の仲間と一緒に自分たちの周りにはいる命あるものを探してみよう
- そうだ!
- 目の前にある田んぼの生きものを探してみよう
- 田んぼの生きもの調査をしたら多くの生きものがいた
- 私は一人ではなかった
- この感動を多くの人に伝えたい
- 自分の地域の暮らしと生きものを語りたい
- 生きものを育む田んぼのお米をみんなに伝えたい

〔生きもの語り送り先〕

特定非営利活動法人 生物多様性農業支援センター
〒194-0293 東京都町田市相原町 4771 JA 教育センター
TEL 042-711-7015 FAX 042-711-7016
e-mail:tambo@basc.jp <http://www.basc.jp>

生きもの語りの勧め

～文章編～

つぶやきと語り

今年の流行したものでツイッターによる「つぶやき」があるが、何か淋しいものを感じる。つぶやきとは一人でのモノログであり、人を前にして話すことではない。しかし「つぶやき」をデジタル文字に変えて公衆の面前に出し、他の人の「つぶやき」のデジタル文字を読むという、これまでの人間のコミュニケーションスタイルには無かったものである。私たちが始めている「生きもの語り」の「語り」とどのように違うのだろう。「語り」とは昔からの人間のコミュニケーションスタイルであり、相手に語りかけることが基本となっている。そこには自分の「思い」があり、相手もその「思い」を聞いて感情移入をする。将に双方向コミュニケーションである。しかし「つぶやき」は一方通行であり、コミュニケーションではない。現代社会の狭間に落ち込んでしまった人の「叫び」、将にムクの「叫び」を多くの人がつぶやいている構図ではないか。

生きもの語りは生きものをテーマにした話で、語る相手は人間の場合もあるし、生きものの場合もある。語る動機も生きものの気持ちを代弁するものもあるし、人としての思いもある。間違いなく、一人で叫んでいるわけではない。ここに紹介する短編は佐渡市が募集した朱鷺と暮らす郷生きもの語りから抜粋したものである。

早起きして田んぼに行ったお父さん

昨日の夜のお父さんはとても残念そうでした。明日は早起きしてお仕事に行く前に、田んぼの溝切りをするから、ビールを飲まずに早く寝るんだって言ってたけど、今朝私が7時に起きたらお父さんはお家にいました。「寝坊したの？」「田んぼ行かなかったの」と聞くとお父さんは「ううん、早起きして田んぼに行ったよ。そしたらイネの所にヤゴがいっぱい止まって、羽化するところだったんだよ。とてもキレイでね、溝切りをしてお父さんが田んぼに入ったら、トンボになるのを邪魔しちゃうだろ。」おかあさんがご飯をよそいながら、「隣の田んぼのおじいちゃんに、溝切りは夕方にしなさいって言われたんだって」と笑顔で言いました。「あ～あ、せっかくビール我慢したのに」と言いながら、お父さんも笑顔でした。私も今夜は早く寝て、明日田んぼに行ってみようっと。

ヤゴと農作業と生産性

これは今回の大賞受賞作品であるが、お父さんの優しさと家庭の雰囲気がよく分かる作品だった。お父さんもお母さんも娘さんも隣のお爺ちゃんも、みんなの笑顔が見える作品になっている。農業とは本来、お米を生産する仕事なので生産性を追及しなければならない。だから田んぼにいるヤゴの羽化に遠慮して溝切り作業を延期することは時間的ロスを生ずるので経済的損失を与える行為なのか。それともトンボは田んぼの害虫を食べてくれる益虫なので、ヤゴの

羽化を邪魔する行為は農薬散布量を増やすという行為なので生産性を向上させる行為なのか。農業という行為を産業の生産性の視点だけで議論するとこのように変な議論になってしまう。更に、この文章は「つぶやき」では無い。将にヤゴと農作業と家族の「語り」なのだ。

TSUBAME

4月、今年もまた我が家に家族が増える。と言っても佐渡ではどこでも目にする光景。そう、ツバメである。代掻き期から稲刈り前まで田んぼ仕事を2世代に渡って見守ってくれる「縁起が良い」とされる鳥。

しかし、巣づくりをする場所は決まって車庫の中。我が愛車はこの間、青空駐車を余儀なくされる。父はこのことを快くは思っていないようだが、私と息子はむしろ熱烈歓迎で擁護する。ツバメの巣づくりや子育てを見ていると心が和むのだ。農作業を終えて帰宅し、小農具を車庫に納めるときは驚かさないように必ず一声かける。ツバメが他の仲間も呼んで来て鳴きながら周囲を飛びまわっているときは猫や蛇などの外敵が侵入してきたときだ。このサイン？が聞こえたらすぐに飛んで行き外敵を追い払う。家族を守るには気を使うことも多いのである。ふだんはあまり干渉せず一定の距離を置きながら子育ての様子を伺う。この些細な日常が私と息子の毎年の「楽しみ」のひとつになっている。

・・・9月、稲穂も実り、早いもので別れの時が来た。朝、様子を伺いに車庫を覗いて見てもそこにツバメの姿はない。2～3日そんなことが続き、もう旅立ったのかなと寂しさを感じ立ち尽くしていたちょうどそのとき、そこにツバメの親子が来て私の周囲をぐるぐると何度も何度も回り始めたではないか。私は思わず手を振る。[まだいたんだね。でも今度は本当にお別れだね。] そう感じたからである。それからあと、ツバメは姿を現さなくなった。

あとでこのことを嫁に話しながら、“でも、たまたま偶然の光景。ツバメがいさつをしていくなんて、思い過ぎしだよ。ハハハ”と笑ってみせると、“そうでもないわよ。あなたの気持ちは伝わっていたはずだもの。ちゃんとお別れを言ってくれたのよ”。と嫁は言う。

— ちょっぴり熱いものが胸に込み上げた

ツバメと別れの挨拶

これは私が推奨した作品。4月から9月までの長い期間に渡る生きもの語りだ。登場するのはツバメとその家族そして息子と自分と家族。舞台背景は車庫とツバメの巣、そして遠景に田んぼの風景が登場する。佐渡のお米づくりの農作業とツバメの子作りの関係が見えてくる。街中ではツバメの糞によってクルマが汚されると怒る人が多いが、田舎ではクルマを移動する。何とものどかで、生きものとともに生きるということが実感できる。「生きものとの共生」という漢字では表現しきれないことだ。この作品にもツバメとの出会いから別れに対する家族の思いが描かれている。自分の家族とツバメの家族がオーバーラップしている。分かれに際して本当にツバメが挨拶をしたかどうかは本人しか分からない。「つぶやき」には無い「熱いもの」が語りにはある。

生きものたちの主張

テン「ケージの中のトキをほとんど皆殺しにしたから、人間は私たちのことを残忍だって言うけど、私たちはそういう生きものなのよ。責められても困るわ。私の両親もそのまた両親も同じことをしてきたし、親に教わったというより、それは DNA の中に組み込まれているの。理屈じゃないのよ。テンはもともと佐渡にいなかったとも言うけど、私たちも来たくて来たわけじゃない！人間たちが連れて来たんでしょ。」

カラス「私たちのしたことが、あそこまで撮られていたなんて、知らなかった。トキの卵を盗むところが全国放送で流れてしまって、カラスは駆除しろって言うし。1羽のカラスがトキの気を引いている間に別のカラスがすばやく卵を盗む。みごとな連携プレー！でも人間は誰も誉めてくれないのね。カラスだって子孫をたくさん増やすために必死なのに。」

トキ「トキ保護センターにいた頃の話だけど、お客さんのなかには、『トキはこんな狭い所で暮らしていて、かわいそうに。早く自由に飛ばせてやれ』という人が時々いたぞ。でも、ケージの中は餌もきちんと貰えて住みやすかったなあ。自然の中で自力で生きていくのは大変だぞ。ケージに戻りたいとは思わなけれどね。今は代々引き継いできた生きる力を目いっぱい使ってるって感じ。」

テン・カラス・トキ「他の生きものに人間の考えを押し付けないで！」

生きもの語りの勧め～川柳・俳句編～

1. 川柳と俳句の違い

(1) 歴史的相違

川柳と俳句とも、連歌（和歌における韻律（五・七・五と七・七の音節）を基盤として、複数の作者が連作する詩形式）を母体にしています。

俳句は、連歌の第1句＝発句（五・七・五）の17音が独立、発展したものです。逆に、下の句（七・七）がお題となり、気の利いた上の句（五・七・五）にまとめることを付け句（つけく）と言い、これが川柳に発展していきます。

(2) 内容の相違

俳句は、後続の七・七の言葉を連想してもらうために、読者に「余韻」を残す作品となります。

川柳は、後続の七・七の言葉を無くして五・七・五を独立させたため、「言い切り」の形となり、読者に「言い得て妙」とうなづかせる作品となります。

俳句の対象は、自然そのもの（花鳥諷詠）で、ありのままの自然の姿を描きだす（客観写生）ことを目的としています。

川柳の対象は、人間そのものや、人間をとりまく様々な事柄で、風刺・

皮肉を加味し、滑稽とあてこすりから人間の本質が生み出す笑い（ユーモア）を表現することを目的としています。

(3) 形式的な相違

俳句は、発句が発展したもののため、発句にとっての約束事である季語、切れ字が必用となります。（自由律俳句など例外もあります）
川柳では特にこだわりません

2. 川柳・俳句の事例

(1) サラリーマン川柳

- 第1位 「空気読め!!」 それより部下の 気持ち読め!!
- 第2位 「今帰る」 妻から返信 「まだいいよ」
- 第3位 減っていく… ボーナス・年金 髪・愛情
- 第4位 円満は 見ざる言わざる 逆らわず
- 第5位 ゴミだし日 (び) すてにいかねば すてられる
- 第6位 「好きです」と アドレス間違え 母さんに
- 第7位 国民の 年金、損なの 関係ねえ
- 第8位 社長より 現場を良く知る アルバイト
- 第9位 赤字だぞ あんたが辞めれば すぐ黒字
- 第10位 「いつ買った？」 返事はいつも 「安かった」

(2) 朱鷺の川柳

県超えて 住民登録 朱鷺飛翔
お前もか 海越えトキに 涙する

(3) カエルの川柳

カエルがね ケロケロ合唱 癒される
アマガエル それは自分の 前世です
古池や 蛙飛び込む ありがとう
聞かないで おたまじゃくしの 頃のこと
言ってみろ! かえるぴよこぴよこ みぴよこぴよこ あわせてぴよこ
ぴよこ はらへった
僕だって あの高さなら 飛べるはず
足はえる 両手が生える 尾がぬける
ケロケロと 鳴くのは去年 見たアイツ
おたまじゃくし 見られた田んぼ いま宅地

(4) 赤とんぼの俳句

道祖神 抱き合う野辺の 赤とんぼ
赤とんぼ 見るも久しい くにの墓
赤とんぼ 影から先に 来てとまり

赤とんぼ ここは悲しい 別れみち
旅たのし 靴結ぶ背に 赤とんぼ
赤とんぼ 空の高さへ 吸い込まれ
リュック鳴る 明日香の道の 赤とんぼ

(5) ドジョウの俳句

どじょう一匹 いない田んぼに 詩がない
どじょうさえ 住みよい所だけに 住む
故里の どじょうも去った 川さみし
どじょうにも 休耕田の 住み心地

(6) メダカの俳句

春が来て めだかの学校 一年生
略図書く 川に 目高が もういない
梅雨明けの 川に 詩があり 目高の子
ピクニック 目高 幾度も 目にあまり

「さあ、みんなで俳句と川柳にトライしてみよう！」

フォト俳句の事例



生きものの語りメモシート

場所： _____ 県 _____ 市 _____

名前： _____

記入日： _____

子どもが興味を示した生きもの

子どもの反応と行動

自分が感じたこと

生きものの語り俳句川柳シート

場所： 県 市

名前： _____

記入日： _____

